

Museum Info 2014

ミュージアム・インフォメーション

平成26年度の山梨県立美術館・文学館・博物館・考古博物館の
展覧会の予定をご案内します。

春 (4~6月)

博物館

手塚治虫×石森章太郎 マンガのちから

平成26年3月21日(金・祝日)~5月19日(月)

日本を代表する文化としてのマンガの礎を築いた、手塚治虫や石森章太郎。彼等の歩みや作品に込められたメッセージを、「鉄腕アトム」「ブラック・ジャック」や「サイボーグ009」「仮面ライダー」などの代表作品の原画等、さまざまな関連資料を通して明らかにし、マンガのもつ「ちから」の源流を探ります。

また、彼らが青春時代をすごしたマンガの聖地「トキワ荘」を再現展示します。

□観覧料/一般1,000円、大学生500円



「鉄腕アトム」©手塚プロダクション 「サイボーグ009」©石森プロ

文学館

村岡花子展 ことばの虹を架ける~山梨からアンの世界へ~

平成26年4月12日(土)~6月29日(日)

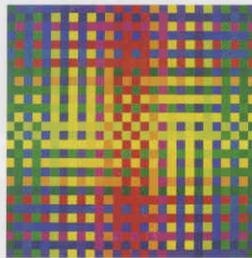
山梨県甲府市に生まれた村岡花子(1893~1968)は、英文学の深い教養を身につけ、こどもたち・少女たちのため、夢に溢れる童話や翻訳小説を世に送り出しました。代表作「赤毛のアン」シリーズは、刊行から60年以上を経た今日もなお、多くの読者に愛されています。一方、佐佐木信綱の門下で短歌を学び、生涯を通じて、折々の思いを詠んだ数々の歌を残しています。村岡花子への関心が高まっている今、波瀾にみちた生涯とその文学の原点をさぐります。

□観覧料/一般600円、大学生400円



山梨英和女学校で教師をしていた頃
提供:赤毛のアン記念館・村岡花子文庫

美術館



動く!光る?魔法の芸術 キネティック・アート

平成26年4月26日(土)~6月15日(日)

1960年代、ヨーロッパで「キネティック・アート(動く芸術)」と呼ばれる、目の錯覚を利用したり、電気で動いたり、光やネオンを使ったりした美術作品が注目を集めました。本展では、ブルーノ・ムナリ、ジャンニ・コロンボら、イタリアの作家の作品を中心に約90点の「動く」作品を紹介します。いずれも日本初公開です。

□観覧料/一般1,000円、大学生500円

ジュリオ・バルク(シリーズ29 no5-9 9-5) 1970-72年
写真提供:Centro Culturale Arte Contemporanea Italia-Giappone(ACIG),Parma

考古
博物館

縄文人の装い 一県内出土の装身具一

平成26年4月26日(土)~6月15日(日)

古今東西、身を飾るということは私たち人間にとって大変重要な行為です。今から数千年前の縄文時代のさまざまな装身具を紹介しながら、造形的美しさや高度な工芸技術をご覧くださいだけでなく、今と昔のアクセサリの意味の違いや現代の私たちにとってのアクセサリについても考えてみる展覧会です。

□観覧料/無料

大月市 大月遺跡 ヒスイのペンダント



博物館

広重の不二三十六景

平成26年6月7日(土)~7月7日(月)

本展は、昨年度の「北斎の富嶽三十六景」に続く、富士山世界文化遺産登録を記念した展示会です。歌川広重は、「東海道五拾三次之内」などの制作で知られ、日本を代表する浮世絵師で、膨大な数の風景版画を制作し続け、富士の姿も沢山描き込んでいます。その晩年に取り組んだ、富士図のみで構成する2組の連作が「不二三十六景」「富士三十六景」。本展では、「不二三十六景」を中心に、富士山の美とその魅力を紹介します。

□常設展観覧料(一般510円、大学生210円)でご覧いただけます。



不二三十六景より
「甲斐犬目峠」



不二三十六景より 「駿河富士沼」

小・中・高校生等は無料で全ての展示をご覧いただけます。

夏 (7~9月)

美術館



生誕200年 ミレー展 —愛しきものたちへのまなざし—

平成26年7月19日(土)~8月31日(日)

2014年はジャン=フランソワ・ミレーの生誕200年にあたります。本展ではフランスやアメリカなど海外の優品に、国内に所蔵される作品を加え、ミレーの作品世界を紹介します。家族の肖像や生活の情景を描いた作品に焦点を当て、画家の全貌を捉え直します。

□観覧料/一般1,000円、大学生500円

ジャン=フランソワ・ミレー
《子どもたちに食事を与える女(ついばみ)》1860年



博物館

幽霊・妖怪画大全集

平成26年7月19日(土)~9月8日(月)

毎年夏になると語られる怪談噺や、イベントで催される肝試し。「怖い」と思いながらつい覗いてみたくなる「幽霊・妖怪」の世界。先人達が豊かで自由な発想で生み出した「幽霊・妖怪」からは、日本人独特の自然観、死生観を読み取ることができます。出品作品は、日本画家だった吉川親方コレクションの幽霊・妖怪の絵画、版画(福岡市博物館蔵)を中心に構成されています。時代を超えてもなお人々の心を捉えて止まない「怖さ」の正体に迫ります。

□観覧料/一般500円、大学生250円



歌川国芳
「相馬の古内裏」

野村清六
幽霊図「おもい」

考古
博物館

まじないの世界 —儀式・呪文・霊的技術—

平成26年7月19日(土)~8月31日(日)

遺跡からは、昔の人々が願いや祈り、呪いを込めたと考えられる不思議な遺物も出土します。こうしたものは医療や科学技術が現代のように発達していない時代、「まじないの世界」に真剣に願いをかけた人々の思いが形になったものです。さまざまな祭祀遺物から目には見えない人々の「こころ」を探り、古代のまじないの世界をひも解きます。

□観覧料/無料



甲府市 塩部遺跡
人形(ひとがた)



南アルプス市 大師東丹保遺跡
烏帽子をかぶった人物の人形(ひとがた)

文学館



本のおしゃれ

平成26年7月19日(土)~8月24日(日)

電子書籍で読書を楽しむ人が増える一方、美しく装幀された本や雑誌が改めて注目を浴びています。夏目漱石『吾輩ハ猫デアル』、泉鏡花『遊里集』、深沢七郎『楳山節考』など、個性豊かに装飾された名著の数々を紹介します。

□常設展観覧料(一般320円、大学生210円)でご覧いただけます。

高橋忠弥画「楳山節考」カバー原画

山梨県内の65歳以上の方は無料で全ての展示をご覧いただけます。(県外の65歳以上の方は常設展料金のみ無料。)

Museum Info 2014 秋 (10~12月)

ミュージアム・インフォメーション

美術館

山梨の戦後美術 四人の改革者たち

平成26年9月20日(土)~11月3日(月・祝日)

山梨県立美術館では、1984年から98年までの間、県出身、関係の作家を対象に隔年形式の選抜展を開催しました。本展では、その後の作家活動が顕著な作家を追いながら、山梨の現代作家を歴史的に検証し、それぞれの作家の代表作を展示します。

□観覧料/一般1,000円、大学生500円



深沢軍治《蓋(地上にて)》1985年

文学館



谷崎潤一郎(肖像)



「母を恋ふる記」原稿

谷崎潤一郎展

平成26年9月27日(土)~11月24日(月・振替休日)

明治・大正・昭和にわたり小説を書き続け、「痴人の愛」「春琴抄」「細雪」など現代に読み継がれる名作を残した谷崎潤一郎(1886~1965)。本展では谷崎潤一郎の生涯と豊饒な作品世界に迫り、時代に残した足跡をたどります。

□観覧料/一般600円、大学生400円

考古
博物館



古の音と形

掘り起こされた音の形 —まつりと音具の世界—

平成26年10月8日(水)~11月24日(月・振替休日)

人は音楽と共に生きてきました。古来、様々な道具で様々な音を発し、楽しんできたことが多くの考古資料から明らかになっています。私たちと音楽が長く奏でてきたハーモニーを、発掘された楽器や復元した古代の楽器から振り返ります。

□観覧料/一般・大学生600円

博物館

甲斐の黒駒 —歴史を動かした馬たち—

平成26年10月11日(土)~12月1日(月)

聖徳太子が甲斐の国から献上された黒駒にまたがると、富士山まで飛んで帰ってきたという黒駒伝説。戦国最強と言われた武田の騎馬隊。馬が山梨の歴史において果たした役割は大きい。しかし、馬が生活の中から姿を消した今日ではその重要さを理解することは難しい。本展では馬が日本列島に初めて伝わった古墳時代から近代まで、馬にまつわる文化を振り返ることで、山梨の歴史に新たな光を当てます。

□観覧料/一般500円、大学生250円



古柳塚古墳出土馬具
笛吹市教育委員会蔵



黒駒太子像
(富士曼荼羅園)

美術館



佐伯祐三《レストラン(オテル・デュ・マルシェ)》
1927年 大阪新美術館建設準備室蔵

大阪新美術館コレクション 佐伯祐三とパリ ポスターのある街角

平成26年11月15日(土)~平成27年1月18日(日)

30歳の若さで夭折した天才画家・佐伯祐三の短くも鮮烈な画業を回顧します。フランス滞在中に制作された佐伯の作品に加え、佐伯と交流のあった同時代の画家の作品や当時のポスターを展示し、佐伯が魅せられた芸術の都パリの息吹を紹介します。

□観覧料/一般1,000円、大学生500円

県民の日(11月20日)は、どなたでも無料で全ての展示をご覧いただけます。

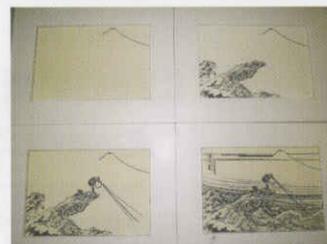
博物館

さわれる富士三十六景

平成27年2月7日(土)~3月9日(月)

葛飾北斎の「富士三十六景」は、日本はもとより海外でも最も親しまれている富士図のひとつ。本展は、大学の研究グループが開発した触覚展示の手法を用いて作成した富士三十六景を、実際にふれることで理解していきます。1作品を4つに分解するこの手法は、浮世絵の多版多色刷りの手法に類似しているため、視覚障害者だけでなく、健常者にも、触覚によって富士三十六景のすばらしさを体感して頂けます。

□常設展観覧料(一般510円、大学生210円)でご覧いただけます。



さわれる富士三十六景「甲州石班滝」

博物館

微笑みの円空・木喰展

平成27年3月28日(土)~5月18日(月)



甲斐国出身の木喰は、全国を行脚しながら各地で仏像を彫り残した、作仏聖として知られています。93歳で没するまで、全国で1,000体以上に及ぶ像を制作したと言われ、現在は700体程が確認されています。その多くが満面の笑みを浮かべていることから「微笑仏」と呼ばれ、今でもたくさんの人を魅了しています。本展では、本県出身の木喰の作品とともに、同じく作仏聖として名高い円空の作品も併せて展示し、近世遊行聖の活動について残された作品と資料から紹介します。

□観覧料/一般1,000円、大学生500円

木喰作「子安観音菩薩」 徳蔵寺蔵

観覧料	(円)		
	常設展	特別展・企画展	定期観覧券(年間パスポート) 購入した日から1年間、常設展・企画展(特別展)を何回でも観覧できます。
美術館	一般	510 (420)	3,080
	大学生	210 (170)	1,540
文学館	一般	320 (250)	1,540
	大学生	210 (170)	770
博物館	一般	510 (420)	2,060
	大学生	210 (170)	1,030
考古博物館	一般・大学生	210 (170)	1,330

(円)	
ミュージアム甲斐in券 (4館共通定期観覧券)	
購入した日から1年間、美術館、文学館、博物館、考古博物館の全ての常設展・企画展(特別展)を何回でも観覧できます。	
一般	5,150
大学生	2,580

県内の65歳以上の方(県外65歳以上の方は常設展料金のみ)、障害者及び介護者ならびに、小・中・高校生等は、無料です。

※():団体(20名以上)料金
※H26.4.1からの料金です。

山梨県立美術館

〒400-0065 甲府市貢川1-4-27
TEL 055-228-3322
開館時間/9:00~17:00(入館は16:30まで)
休館日/月曜日(祝日の場合はその翌日)

山梨県立文学館

〒400-0065 甲府市貢川1-5-35
TEL 055-235-8080
開館時間/9:00~17:00(入館は16:30まで)
休館日/月曜日(祝日の場合はその翌日)



JR甲府駅からバスで約15分

山梨県立博物館

〒406-0801 笛吹市御坂町成田1501-1
TEL 055-261-2631
開館時間/9:00~17:00(入館は16:30まで)
休館日/火曜日(祝日の場合はその翌日)



JR石和温泉駅からバスで約10分

山梨県立考古博物館

400-1508 甲府市下首根町923
TEL 055-266-3881
開館時間/9:00~17:00(入館は16:30まで)
休館日/月曜日(祝日の場合はその翌日)



JR甲府駅からバスで約30分

不二三十六景

廣重画

大江戸市中
七夕祭



不二三十六景 大江戸市中七夕祭

富士山世界文化遺産登録一周年記念

全三十六点 一挙公開

広重の 不二 三十六景

平成二十六年

六月七日 土 — 七月七日 月


山梨県立博物館
Yamanashi Prefectural Museum

休館日 / 毎週火曜日

開館時間 / 9:00 ~ 17:00 (入館は16:30まで)

主催 / 山梨県立博物館

協力 / 山梨交通株式会社

観覧料 / 常設展観覧料でご覧いただけます。一般510(420)円 大学生210(170)円

※65歳以上の方、障害者の方(およびその介護をされる方)、小・中・高・特別支援学校の児童・生徒は無料です。
※()内は20名以上の団体、県内のホテルや旅館に当日か前日に宿泊する方を対象とした割引料金です。
※無料、割引の対象となる方は、それぞれ証明できるものをご提示ください。
※定期観覧券(年間パスポート)もございます。

〒406-0801 山梨県笛吹市御坂町成田1501-1 Tel:055-261-2631 Fax:055-261-2632
E-mail:kenhaku@pref.yamanashi.lg.jp URL: http://www.museum.pref.yamanashi.jp

広重の 不二 三十六景

歌川広重は、生涯にわたり数々の名所絵を世に送り出した、浮世絵風景画の名手として知られます。その作品は平明で美しく、情緒的な趣をたたえており、今も多くの人を魅了してやみません。本展では、広重による富士山をテーマとした連作、「不二三十六景」全作を一挙に公開いたします。富士山世界文化遺産登録一周年を迎えるこの機会に、美しく描き出された富士の諸相をお楽しみください。



東都江戸橋日本橋



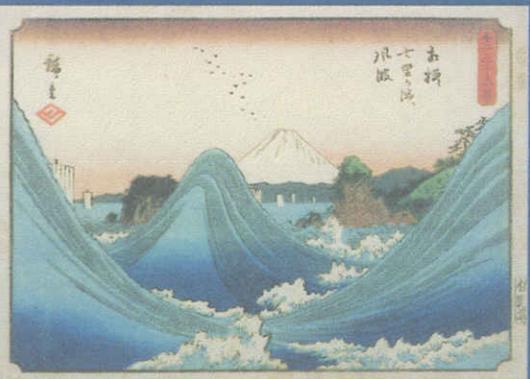
甲斐六目峠



駿河富士沼



武蔵野



相模七里小濱風波

◆関連イベント

○かいじあむ古文書講座「富士山に関する古文書を読む1」

日時：6月28日(土) 13:30~15:00

会場：生涯学習室

※事前申込が必要(県立博物館 TEL055-261-2631)、聴講無料。

○かいじあむ子ども工房「立体浮世絵を作ろう」

日時：6月14日(土) 10:30~15:00(所要時間1時間程度)

会場：ロビー

※対象は小学生以上、申込不要、参加無料。

○かいじあむ子ども工房「浮世絵をすってみよう」

日時：6月22日(日) ①10:00~11:30、②13:00~14:30(所要時間20分程度)

会場：体験学習室

※対象は小学生以上、申込不要、参加無料。

○ギャラリー・トーク

日時：6月14日(土)、7月6日(日) 15:00~(所要時間30分程度)

会場：企画展示室

※申込不要、常設展観覧券が必要です。

◆アクセス

- ・中央自動車道一宮・御坂ICから車で約8分
- ・JR石和温泉駅からバスで約10分
山梨交通/「山梨県立博物館」行き
- ・JR甲府駅からバスで約30分
山梨交通/南口7番のりば「山梨県立博物館」行き
富士急行/南口7番のりば「富士山駅」・「下黒駒」行き
- ・富士急行・河口湖駅からバスで約40分/5番線「甲府駅」行き
- ・富士急行・富士山駅からバスで約50分/4番線「甲府駅」行き



山梨県立博物館
Yamanashi Prefectural Museum

〒406-0801 山梨県笛吹市御坂町成田1501-1 Tel:055-261-2631 Fax:055-261-2632

E-mail:kenhaku@pref.yamanashi.lg.jp URL:http://www.museum.pref.yamanashi.jp



Yamanashi
Jewelry
Museum

山梨ジュエリーの今

Museum Selection 1

ジュエルド・ガーデン

Jewelled Garden

2014.4.26 [土] — 7.7 [月]

同時開催

「ストーン・カメオの世界」

山梨ジュエリーミュージアム

<http://www.pref.yamanashi.jp/yjm/index.html>

入館無料

ジュエルド・ガーデン

“Jewelled Garden”

2014.4.26 [土] — 7.7 [月]

当ミュージアムは、県内宝飾業界の協力のもと、2013年9月にオープンしました。有数のジュエリー産地である山梨を広く国内外に発信するための拠点であり、官民一体で新たな地場産業の振興をすすめる「場」としての役割を担っています。2014年4月、地元宝飾業界から、ミュージアム支援のため、山梨の技術とデザインを活かした作品およそ50点が寄贈されました。ミュージアムでは2回に分けて、これらの作品をご紹介します。

それら作品の中から、今回は、「Jewelled garden(ジュエリーで彩られた庭)」というイメージで、展覧会が行われる春から初夏にふさわしい、身につける楽しさや喜びを感じらるようなジュエリーを選び展示いたします。



1



2



3



4



5



6

1.「春風に舞う」デザイン:西美由紀 制作:ジュエリーフルヤ 古屋孝夫 2.「つながりのコミュニケーション」デザイン:石川義男 制作:K's Factory 小沢一欽 3.「リボン」デザイン:清水司朗 制作:貴石彫刻オオヨリ 大寄芳朗・工房「雅」藤澤一雅 4.「ギシュウ」デザイン:大森弘子 制作:(株)イノウエ 小椋欽三 5.「羽～hane～」& 6.「源～minamoto～」デザイン:飯島恵子 制作:(株)光新宝飾 大森俊哉 金池淳 金善吉

体験工房のご案内

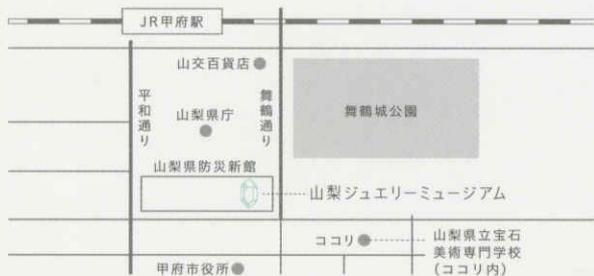
土、日、祝日に予約なしで気軽にジュエリー制作ができるプログラムをご用意しています。ジュエリー産地、山梨で活躍している職人の指導のもと「山梨ジュエリー」のワザを体験してみませんか。



山梨ジュエリーミュージアム

開館時間：午前10時～午後6時(最終入館は、午後5時30分まで)
 休館日：火曜日(祝日の場合は、その翌日)、年末年始(12/26～1/1)
 : その他、臨時に開館・休館することがあります。
 駐車場：92台(山梨県防災新館地下有料駐車場、来館者は1時間無料)
 〒400-0031 山梨県甲府市丸の内1-6-1 山梨県防災新館1階
<http://www.pref.yamanashi.jp/yjm/index.html>

入館無料



同時開催 「ストーン・カメオの世界」

2014.4.26 [土] — 7.7 [月]

メノウの白い層を主な素材とし、浅浮き彫りの彫刻を施したストーン・カメオ。ヨーロッパでは紀元前から、大切な人のイメージを所持するために製作されていました。石の彫りによる陰影や、石の薄さによる透過する色の変化など、繊細な技術を駆使したストーン・カメオの貴重なコレクションを、甲府市にあるストーン・カメオ・ミュージアムの協力を得て紹介いたします。

※ ストーン・カメオ・ミュージアムは、株式会社古屋が運営するミュージアムです。



「ベニスの商人」
 作:ハンス・ディーター・ロート



「ロミオとジュリエット」
 作:ハンス・ディーター・ロート



「千手観音と二十八部衆」
 作:ゲルハルト・シュミット



かつて山梨は水晶を多く産出しました。古くは縄文の時代より、この地に住む人々はその水晶を加工して、用いていたと言われます。その後、研磨・加工を生業とする人々がここで暮らし始めました。

初めて水晶の原石を目にした縄文人は、その石の不思議な形や透きとおる様子に惹きつけられ、何か特別なものをそこに見ていたかもしれません。この感性は、今に至るまでわたしたちの中に引き継がれています。

山梨から、これまで多くのジュエリーが人々のもとへ届けられていきました。そしてこれからも、人々を魅了するジュエリーが山梨から生み出されていくはず。ミュージアムは、その歴史、伝統と未来をつなぐ場としての役割を担っていきます。

わたしたちはミュージアムのシンボルとして水晶の原石を選びました。この原石を磨き上げ、かたちづくっていくように、みなさまと一緒にミュージアムを作っていけたらと考えています。



山梨ジュエリーミュージアム

山梨県立宝石美術専門学校附属ジュエリーミュージアム
(通称:山梨ジュエリーミュージアム)

開館時間: 午前10時～午後6時(入館は閉館の30分前まで)

休館日: 火曜日(祝日の場合は、その翌日)、年末年始
その他、臨時に開館・休館することがあります。

入館料: 無料

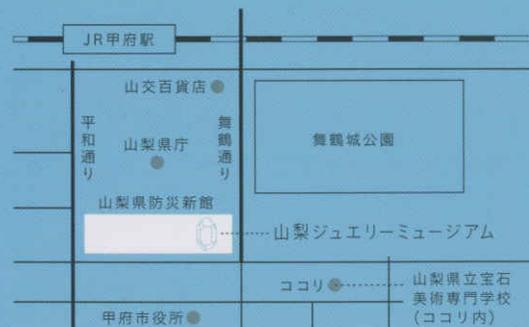
施設概要: 延べ床面積500平方メートル
(展示室5室、実演工房、体験工房、ショップ)

〒400-0031 山梨県甲府市丸の内1-6-1

山梨県防災新館1階やまなしプラザ内

TEL 055-223-1570 FAX 055-223-1572

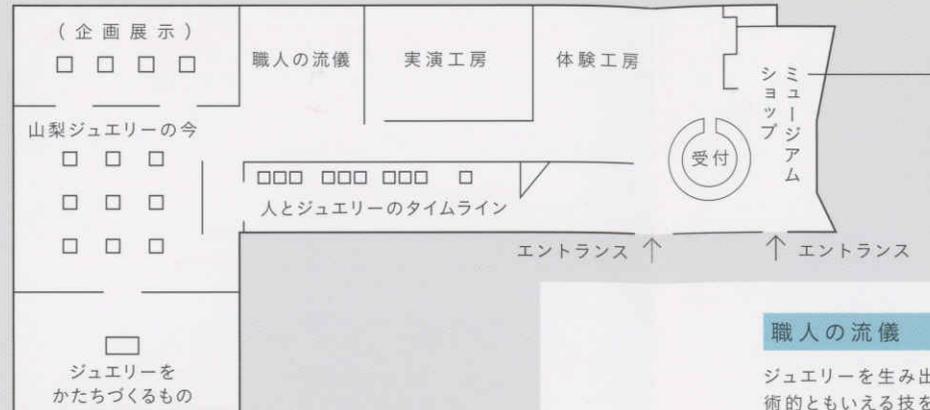
<http://www.pref.yamanashi.jp/yjm/index.html>



Yamanashi
Jewelry
Museum

山梨県の宝飾産業は、江戸時代に上質の水晶が採掘され、水晶研磨の技法が伝えられたことが始まりと言われます。現在では、水晶やめのうなどの素材を使った美術彫刻やジュエリーの素材である宝石の研磨加工、ジュエリーを作る貴金属加工、更には国内外へのジュエリーの流通を行う企業など、ジュエリーに関わるあらゆる業務が集中する、世界的にも珍しい「集積産地」となりました。

本施設は、地場産業としての山梨の宝飾品加工生産の歴史、受け継がれるべき卓越した技術、そして生み出される美しい宝飾品の数々により、山梨宝飾産業と「山梨ジュエリー」のすばらしさを発信する施設を目指しています。



人とジュエリーのタイムライン

山梨がジュエリーの一大産地へ至った歴史的背景に人とジュエリーのかかわりを重ね合わせ、人とジュエリーの関係に思いを馳せる空間です。



ジュエリーをかたちづくるもの

ひとつのジュエリーが完成するまでに、どのような工程をたどるのでしょうか？山梨で産出した水晶、世界各地の鉱物、これらを加工する貴金属加工・研磨・彫刻の道具たち。ジュエリーをかたちづくる“もの”の展示スペースです。



山梨ジュエリーの今

山梨で活躍するデザイナー、職人、作家が制作する作品の数々。高度な技術力とそれを活かすデザイン、若手デザイナーや職人の新しい試みなどジュエリー産地“山梨”から発信される多彩なジュエリーを展示しています。



企画展示

ジュエリーや宝石、鉱物など広範囲なテーマについてミュージアムが企画する展示のほかに、山梨県立宝石美術専門学校や山梨県内で活躍する宝飾関連の団体などによる企画展示を展開します。



職人の流儀

ジュエリーを生み出す芸術的ともいえる技を貴金属加工・研磨・彫刻、各分野の優れた作品を通して紹介します。作品とともに、宝飾産業に携わる「プロフェッショナル」を84インチの大画面で紹介しています。



実演工房

貴金属加工・研磨・彫刻の職人が実際に作業している様子を見学することができます。山梨ジュエリーの歴史や伝統、地域ならではのかたちを受け継いできた職人の卓越した技を間近でご覧ください。(土、日、祝日開催)



体験工房

気軽にジュエリーの製作や研磨の体験などができるプログラムを用意しています。各プログラムとも定員があります。早めにお申し込み下さい。詳細はWebをご覧ください。(土、日、祝日開催)



公益財団法人

美枝きもの資料館

www.mie-kimonomuseum.or.jp



資料館名誉館長 木村 孝
 理事長 上田裕子
 住所 〒409-3117 山梨県南巨摩郡身延町三沢116
 TEL-FAX 0556 (37) 0003 携帯 080 (9554) 9299
 東京連絡事務所 〒103-8450 東京都中央区日本橋横山町8-9
 株式会社上田嘉一朗商店
 TEL 03 (3663) 2511 FAX 03 (3663) 2510

ご利用案内

観覧時間 10:00~16:00
 休館日 毎週月曜日及び9月11日~9月30日
 12月21日~3月9日
 入館料 500円

交通のご案内

徒歩：JR身延線「久那土駅」から徒歩15分
 タクシー：JR身延線「甲斐岩間駅(急行停車)」から10分
 岩間タクシー TEL 0556-32-2010
 車：中央自動車道「甲府南IC」「甲府昭和IC」下車



「白妙の打掛」花柳章太郎の舞台衣裳
伊東深水氏の肉筆になる「雪手前」の舞台で使用されたもの

きものまでをご覧いただきたい
美術品のなから庶民がこよなく愛した

日本人の衣服が社会の上下を通じて現代のキモノのような形になったのは15世紀の頃といわれています。最終的な形に辿り着くと、キモノの仕立ては一見簡単で単調なもののように思われてきました。しかし、使用用途によって様々な工夫が加えられ、種類も多く、仕立てや裁縫には細やかな違いがあります。

きもの資料館の創立者である上田美枝さんは、本業の傍ら和裁界の元老である興津佳平氏の指導のもとに、こうしたいろいろなキモノの二分の一の雛形に作ることを始め、その数は数百点にも及びます。

これらのものを一般に公開してきもの、和裁技術の普及に努めようという目的で創設されたのがきもの資料館です。このほか上田美枝さんが日本のキモノに創意工夫を加えて仕立てられたキモノや、江戸時代から現代までのキモノ、民族衣装も展示されており、おそらく日本中でも他に類のない資料館といえると思います。

日本のキモノや和裁に関心のある方々、これらの歴史などについて知りたいと思う方々にぜひご覧いただきたいと思います。

推薦文抜粋
美枝きもの資料館 前名誉館長 山辺知行

皇室ゆかりのきもの

旧宮家のご親族の方々などから文化と歴史の保護のためにという事で、皇室に伝わる御衣装や御道具などが多数寄贈されて展示しております。



かいどり 総刺繍
女官の正装

ひわ色縮緬地花筏模様総刺繍四つ身振袖

二分の一の雛形

明治大正時代に実際に使用されていたきものを、保存と後世に伝えるために正確に再現し、二分の一に仕立てたものです。



年2回、作品の入替をします

江戸から昭和へ



江戸

明治

大正

昭和

鼠地鼓の瀧模様振袖

赤紫地松竹梅鶴亀鶏模様振袖

黒縮緬地松に羽衣模様振袖

赤朱子地雲に鶴の丸模様刺繍打掛け

リサイクルきもの

農家の方々の作業着は動きやすく、汚れても困らないように工夫がされており、生活の知恵がうかがえます。



ぼろ織り働き着

一升袋
大正～昭和初期、長野県ではこの袋にお米を一升入れて、お嫁にいきました。一升＝一升食べるのに困らないように。



創意工夫のきもの

きものを着やすく、現代にも通じるものにとの思いから、きものや肌着などに工夫を加え考案されたものです。



上田美枝考案
二部式きもの
誰もがきものを着やすいようにと、帯無しできもの姿が楽しめるように上下二部式になっているきものです。



上田美枝考案
裁ち目なし祝い着
折り紙のように折りたたんでいくことで、裁断することなく仕立てて、再々度使えます。

百枚はぎの着物

この百枚はぎの子供の着物は身体の弱い子を持った親が、丈夫な子供の着た着物の裂を貰い集めてこれをはぎ合わせて着せたものという。温かい親の愛情に頭の下がる思いがする。



きもの 体験コーナー

実際に触れて着てみる事が出来ます。
打ち掛けから農民のきものまでご用意しております。
あらかじめご予約ください。